

# がま研 かわの版



第7号

平成15年7月15日

発行

筑波山がまの  
油売り口上研究会

## 先客万来

### 一打ち百人のお客さま

古河桃まつりへの出演要請を受け、満開の桃花のもとで熱演された会員からの喜びの声をお届けします。

「古河の里桃まつり」に参加して

木内 祥三

去る三月二十日、二十一日、二十二日、三十日と五日間にわたりがま口上研究会の会員六名で、古河の里桃まつりに参加させていただきました。

桃は満開。天気はよし。素晴らしい景色の中、舞台ではなく芝生の上で「ガマの油売り口上」をさせていただきました。

拍子木をチョンチョンと打ち、「ガマの油売り口上」がはじまります。どうぞいらっしゃってください。と、たちまち五十人、もう一回拍子木を打つと百人・百五十人とたちまち集まってくる。「サア、サア」お立ちあい」と始まる頃には、二百人を超えている。続々集まるお客様に途中からは数えられなくなりました。お客様からは反応も良く分り、又カメラの枚列にはびっくりしました。

一回目を終え五分もすると「次は何時

からですか？」とお客様が生  
つてくる。三歳くらいの子とも  
とお母さんから記念写真に一緒  
に入ってください。と言われ  
て写真に収まったり、ポーズを  
とらされたりしました。こんな  
に大勢のお客様の前で「ガマの油売り口  
上」ができて、素晴らしい勉強になりま  
した。

まだまだ未熟な私ですが、人前で演じ  
られるようになったのは、林先生をはじめ  
諸先輩、特に宇野先生のご指導のお陰  
だと感謝しております。これから一生  
懸命に勉強して、自分なりのガマ口上を  
目指していきたいと思えます。

木内氏は腹から声を出すがま口上の発声練習を始めてから、ウエスト・体重ともに激減とか…。

しっかり食べて、しっかり飲んで(?)人の輪が広がる。がま口上はこんなに素晴らしい効用も持っているのですね。



## 講習会のお知らせ

### 開催予定日

- 9月20日 (土)
- 10月4日 (土)
- 10月18日 (土)
- 11月1日 (土)
- 11月15日 (土)

計5回

10時から

場所：小町の館

定員：30名

興味のある方へのお  
声掛をお願いします。

## 華麗なる舞台 宇野昭氏の油売り口上

当研究会も協賛させて頂いた『奈良崎正明歌謡  
ショー』の第二部において、大世話人の宇野昭氏  
のがまの油売り口上が華麗に披露されました。

完成品ともいえる口上芸に一層の工夫、研鑽を  
重ねて臨まれたこの舞台は、我々会員にとっても  
大いに励みとなり勉強になりました。ご本人より  
寄せられました謝辞を掲載致します。

### お礼の言葉

大世話人

宇野 昭

会員の皆様にはますますご清栄のこと  
とお喜び申し上げます。さて、去る、四  
月二十日土浦市民会館大ホールで開催さ  
れました『奈良崎正明歌謡ショー』第二  
部の筑波山ガマの油売り口上に出演した  
際には、ご多用にもかかわらずご来場、  
ご観覧いただき、また、つくばね会・会  
員有志・つくば青少年合唱団 他の皆  
様方より、お心のこもった美しい花束を  
頂戴して大感激致しました。本当にあり  
がとうございました。これからガマ口  
上をとおしましてステップアップした活  
動に励む所存でございますので、今後と  
も一層のご指導を賜りますようお願い致  
します。どうぞ時節柄くれぐれもご自愛  
の程お祈り申し上げます。まずは「がま  
研かわの版」を通しまして、お礼のご挨拶  
まで。

# インドネシアの バンドン日本人学校でガマロ演

清水 泰清

昭和三十二年に明治大学工学部を卒業された方々の有志が毎年二月にインドネシアでゴルフツアーを続けています。私は大学は違いますが退職後、元の上司に誘われて昨年からこの会に入れて頂きました。皆さん私よりも五、六歳年上なのですが、その元氣さには驚くばかり。九日間の旅行で七日プレーするので。つまり飛行機で往復する日以外は毎日プレーです。今年も十名参加しました。

インドネシアは赤道直下ですから二月でもものすごく暑いところです。でもメンバーに首都ジャカルタに駐在員として永年勤務された方がいて現地の言葉も様子も全てOKなのです。ジャカルタから東へ二百kmの都市バンドンは標高八四〇m（筑波山位）の保養地で割合しのぎ易い土地です。そこをベースキャンプにして付近でゴルフをして回るわけです。

昨年のツアーである商社の駐在員と懇意になり、その仲間の方々がウエルカムディナーに招待してくれました。今年はこちらが何かお返しをする番です。なにが好いかと考えると一番日本らしいもの、それはガマロ上となりました。渡航前の打ち合わせで現地に打



つしたところ「珍しい日本の芸能を、ぜひ頂けるなら大人だけでも見たいものだ。頼むからぜひ家族揃って見たいものだ。頼むから口演して欲しい。」とボルテージが上がっている気配。

幹事役から聞かされて私は迷いました。海外でガマロ上などめつたにチャンスはない。でもイラク問題が切迫していたこの時期、ただでさえウルサイ空港検査に「模擬刀」といえども「刀」が通る筈はない。「刀」無しのガマロ上など出来るだろうか？

二・三日考えましたが、やってみよう。決心しました。迫力は乏しいかも知れないけど、車のロッドアンテナでも使おう。そこから「血のり」を出す練習もして見て何とかなるさと腹を固めました。

出発までの短い間にEメールの交換で打ち合わせが続きました。会場はバンドンの日本人学校小学生十四名・中学生二名・先生方五名・父兄はたぶん二十名位。全部で四十名の大観客です。それに我々の十一名も加わります。

ホットニューズも入りました。父兄の中に床の間に大小の刀を飾っている方がいないか校長先生が聞きまわっているという情報でした。どんな刀が出てくるのか？あれば有ったで「こわい」話でした。

二月十九日JALで日本を後にしました。案の定、成田の手荷物検査は厳重を極め少しでも物騒な物などとても受け付ける雰囲気ではありません。いつもはのんびりした感じのインドネシア空港でも二重の入国検査が行われていました。な刀など持ちこもうとして睨まれた、

どんな目にあうか知れませんが、と首を撫で回しました。でもそれ以外の道具は出来るだけ持ちこんだので、仲間の中でも一際目立つ大きな手荷物持参となりました。

入国二日目に先方から連絡が入りました。土曜日の午後三時にバンドンの日本人学校でお願いしたい。刀は大小一振りが入手出来た。当日現地でお渡し出来る云々。一番知りたい刀の様子は長さ重さ刃のつき具合などすべて当日までお預けでした。



ゴルフツアーのスケジュールは五時半起床、六時朝食。七時にバスが来て八時頃コースに到着します。ワンラウンド回って近くの町で名物の地方料理を楽しみます。午後はたいてい暑いスコールが来ますが、それは帰りのバスの中で、スコールのおさまった涼しい夕方にホテルへ戻るとというのが一般的な日程になります。

さていよいよ当日です。昼のビールも一人だけ遠慮してスコールの降り止んだ学校へ着きました。若い校長先生に迎えられるりましたが、皆、早くから集まって待っていたとの事。早速始めることにしました。ガマの油と言ってもこちらの方々は、日本の方よりもっと背景が分からないだろうと、実は昨夜司会役のリーダーにガマの歴史と効能についてド口繩のレクチャーをしておいたのです。

大阪夏の陣、光誉上人、傷薬の青葉、ガマ上人、永井兵助、昭和の薬療法など彼の五分間の説明の間にこちらは支度を整

えて舞台に出る約束です。身支度は簡単に整いました。対面した刀には参りました。それは重く立派なもので大刀を借りする事にしました。刃の厚みが五、六もある重量物でした。急いで（これも内緒でという事で借りたチューブ入りの絵の具。これがなんとオレンジ色なのです）「血のり」の仕掛けをして舞台上に上がりました。

口上は順調に進んで紙切りとなりしました。「一枚の紙が二枚」とやったら、やはり無理で半紙は真中から無残にも千切れて破けてしまいました。ドーンと笑いの渦です。「ヤヤーーインドネシアの紙は丈夫で切れないよ。ちよっと待って。日本の紙に取り替えてみるからね。」別の紙を出して今度は刃物の角度を立てて切ったので上手く切れました。「日本の紙は柔らかいのかな？上手く切れたよ！」見事に大うけ、笑いと拍手につつまれて大ピンチは切り抜けられました。オレンジ色の「血のり」も父兄の一人から「現実味が出てたみたい」と誉められたのですから分らないものです。校長先生は「親も子供も日本の物に飢えているから、たぶん家へ帰っても今日の話を語り合っているでしょう。もっと大勢の子供達がいるジャカルタの学校などで演じて貰いたいものです。検討して下さい。」と言われました。検すべてが初体験の海外ガマ口上はこうして終わりました。

### お知らせ 今年で最後か？「筑波山がま祭り」

当会と保存会に来年は無くなるかもしれない(?)が、がま祭りへの協力要請がありました。がま研から5名の方が出演予定です。見学・応援など是非ともご協力をお願い致します。

期日：平成15年8月3日(日)

場所：筑波山神社周辺4カ所のうち御幸ヶ原(コマ展望台付近)とつつじヶ丘駐車場の2カ所担当

時間：11時・正午・1時・2時・3時(計5回)

内容：全国がまの油売り口上大会

※コンクールは行わず発表会のみ



#### 会費の納入はお済ですか？

会の運営費です。未納の方は郵便振込みをお願いします。

年会費 1,000円

記号10690

番号38833081

筑波山がまの油売り口上研究会  
会長 林 正一

昨年会員になられた成田さんは、海外を飛び回るビジネスマン。特にアフリカでの滞在が長くていらっしやいます。彼の地の魅力そして国際理解に大切な心構えなどをお寄せ頂きました。ガマ口上も海外に飛び立つ時代、自国の文化を深く理解することが、相手国をよりよく知ることにつながるようです。

## ア

フリカ大陸には、五〇カ国余あり、当社には、一〇数カ国でビジネスを展開してきました。

小生も幸か不幸か、アフリカでは、東アフリカ四カ国、モロッコ、アルジェリアと計六カ国のビジネスに参画しました。中でも、ケニア、モロッコ、アルジェリアは、其々一年以上の長期滞在となりました。正直いつてアフリカには、海岸地方を除いて、見るべき名所、旧跡が極端に少ない。それでも多くの方がアフリカ行き(プライベート?)を目指している。諺にあるように、「アフリカの水を飲んだものは、アフリカへ帰る」とあるように二度、三度と訪問を重ねている方もいる。そこまでアフリカ狂い?になる理由は、と聞いてみると、異口同音に気候の良さや広大な大自然もさることながら、素朴で飾らない人々との裸の触れ合いに魅せられると言う。ご存知のように、アフリカは、エチオピアで見つかつた「十六万年前のホモ・サピエンスの化石」が証明しているように「人類の故郷」でもあります。今回は紙面の都合もありますので、東アフリカとりわけケニアに絞つ

て述べさせて頂きます。東アフリカの共通語で「ボレ・ボレ」と言う言葉があります。スワヒリ語で「ゆっくり」と言う意味で、全ての人がボレ・ボレの精神です。人と人との出会いを大切に作るアフリカの精神がボレボレ社会の中で生きています。また、アフリカの伝統的社会的な基本的精神として「相互扶助」がありスローガンは、Harabebi（一緒に頑張ろう）です。強者が弱者を助ける、の考え方から貧富の差が生じれば当然、金持ちは貧乏人の面倒を見る。ナイロビで物乞いが生業として成立っているのもこの考え方からです。この「相互扶助」の精神は国家建設にも大いに役立っているようです。

ケニアは、建国の父ジヨモ・ケニヤッタの政治力によって、独立後も政治的には比較的安定している。ケニヤッタの死後、モイ大統領による長期ワンマン政権により、政治は腐敗し汚職、買収等が蔓延。次第に世界からも敬遠され経済的にも凋落しました。未だに、支配力を握る外国資本と一部の指導者だけに豊かさはあるものの、大多数の国民は昔ながらの素朴な生活を送っています。ナイロビには、職を求め地方から人が集り失業者が溢れ、農村では今日の糧を得るのが精一杯という赤貧の人々が多い。けれども、この貧しさを含めても、ケニアは東アフリカで最も豊かで安定している国と言われている。

【一年中、夏の軽井沢それがナイロビ】  
ほぼ、赤道上一（赤道から一四〇km南）の町で、海拔一七〇〇mの高地にあり一年

## 魅せられて アフリカに 人類の故郷

成田敏夫

と通して夏の軽井沢と言った感じ。平均気温約一八度で過ごし易くサツパリしている。四季はなく、3〜5月（大雨季）、11〜12月（小雨季）あとは乾季。小雨季前に、紫色のジャカラランタ（10〜15m）の花が咲き、町中、紫の霞がかかったようになる頃が一番美しい。ナイロビの名は、マサイ語の「エンカレ・ナイロビ（冷たい水）」から付けられたと言われる。一九〇五年英国は、東アフリカの植民地の首都をモンバサからナイロビに移し、新しい町を建設しました。アフリカを代表する顔とヨーロッパの飛び地としての顔を持ち繁栄してきました。反面、町の北部・東部にはインド風の商店街やアフリカ臭いダウンタウンが広がっており、長屋やバラックのスラム街がありアフリカの現実を示す顔であり、美しさと醜さが混沌としている。ナイロビには、日本レストランが三軒（日本人クラブ、赤坂、将軍）、中華等も多数あり、特に不便は感じない。

### 「さあ、サファリ。」

#### サファリの心得

サファリとは元々「旅」の意味。野生動物の狩猟が全面禁止になる以前は、ライフルを持った「ライフルサファリ」が駆け巡ったようですが、今はライフルをカメラに持ち替えて「カメラサファリ」が主流になっている。動物は余り車を怖がらないので目指す動物を見つけたらゆ

くり車を近づける。ライオンやチーターなどは数メートルまで近づける。急に、窓から顔やカメラを出してビックリさせる。と攻撃された思い、襲い掛かることがあるので注意が必要。

#### 「海外でのビジネス上の心得」

海外のビジネスは、語学力だけでなく相手の文化、慣習及び伝統などを理解した上で、相手の目線に立ってうまくコミュニケーションしていく事が大切です。文化、慣習、伝統等は、国毎に異なり、理解を怠るとビジネスでも思わぬ問題に発展する恐れもあります。また、コミュニケーションを円滑にするためには、日本の文化、慣習、伝統等の知識も身に付けておく事が重要です。

ご存知の通り、アフリカは民族問題や政治問題等で内乱が絶えない地域です。その影響でビジネスが出来ない事もある。資金や技術力の不足で、難しい市場であり、ビジネスの推進には新しい発想が求められます。固定観念を打ち破り、絶えず疑問をぶつつける等、不断の「自己変革」の意識を持って相手の国に溶け込む努力が必要です。

#### 編集後記

今回も、沢山の玉稿をお寄せいただきました。次回は一ヶ月を目途にお寄せ頂ければ幸いです。うつつとうしい梅雨も、盛夏を前の体力温存の時期と割り切れれば過ごしやすもの。ご自愛ください。